

2022年度

東京薬科大学大学院薬学研究科

薬科学専攻修士課程

学生募集要項

(一般入試二次募集)

東京薬科大学大学院薬学研究科

2022年度 東京薬科大学大学院薬学研究科 薬科学専攻修士課程（一般入試二次募集）

薬学研究科の基本理念・目的

薬学研究科は、人類と生命を慈しむ心と、科学技術の発展および人類の福祉と健康に貢献するための薬学研究を推進できる高度な研究能力と学識を持ち、国際社会で活躍できる人材の養成を基本理念・目標としています。特に、高度医療、医薬品開発、大学教育などの分野において薬学研究者としての視点を有する医療人および指導者の養成に主眼を置いています。

【薬学研究科の入学受入方針（アドミッションポリシー）】

東京薬科大学大学院では最先端の研究活動を通じて、薬学・生命科学領域における広範囲な基礎的・先進的知識と技能を修得し、自ら問題点の抽出と問題解決を進めていくことが実践できる人材を育成するために、学士あるいは同等の学位を持ち、かつ以下の能力を持つ大学院学生を求めています。

東京薬科大学が求める大学院学生像

- 1) 研究者・技術者として社会に貢献したいという強い意志を持っている。
- 2) 豊かな人間性を養うために積極的な自己研鑽に励むことができる。
- 3) 相互理解のための表現力・コミュニケーション能力に優れている。
- 4) 基礎学力があり、高い勉学意欲を持っている。
- 5) 国際的な視点と倫理性と高い教養を持っている。
- 6) 自ら果敢に新たな分野の開拓等に挑戦することができる。

【薬学研究科修士（薬科学）課程の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）】

薬学研究科は、修了認定・学位授与の方針および、教育課程編成・実施の方針に定める教育を受けるために必要な、以下にあげる人材を求めます。

- 1) 探究心および学修意欲を持ち、自己研鑽に積極的に取り組むことができる。
- 2) 責任感や倫理観が強く、協調性を持っている。
- 3) 化学および生物学などの自然科学系のみならず、国際化に対応する語学力を身につけている。
- 4) 医薬品創製に関する研究を介し、人類の健康と福祉に寄与したいという強い意志を持っている。

【本専攻の目標】

薬学関連領域の研究施設で医薬品創製に関する研究を介し、人類の福祉と健康に寄与する研究者の養成を目標とする。本専攻を修了した者には、修士（薬科学）の学位を与える。

1. 募集人員 若干名

2. 募集教室： 後記教室一覧を参照

3. 出願資格

- (1) 大学を卒業した者（2022 年 3 月卒業見込みを含む）
- (2) 大学評価・学位授与機構より学士の学位を授与された者（2022 年 3 月学位授与見込みを含む）
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者（2022 年 3 月修了見込みを含む）
- (4) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で 22 歳に達した者（2022 年 3 月までに 22 歳に達する者を含む）
- (5) その他、本大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

注：ただし、(4)、(5)に該当する者は 2021 年 11 月 8 日（月）までに、必ず薬学事務課大学院担当へ事前連絡すること。

4. 事前相談

希望教室の指導教員に次の何れかの方法により連絡を取り、**2021 年 11 月 26 日（金）**までに必ず相談すること。（なお土日祝日の事務室は閉室となるので注意すること。）

- (1) 東京薬科大学薬学事務課大学院担当（TEL:042-676-7312）または東京薬科大学受付（代表 TEL:042-676-5111）に電話のうえ、指導教員に取次ぎを依頼。
- (2) 薬学事務課 大学院担当（ygakuji-ml@toyaku.ac.jp）にタイトルを「薬科学専攻入試問い合わせ」として、氏名・出身大学・卒年（予定を含む）・希望教室名をメール送信する。折り返し、指導教員のメールアドレスを本学から連絡する。

5. 出願期間

2021 年 11 月 29 日（月）から 12 月 1 日（水）まで、本学薬学事務課大学院担当において受け付ける。（受付時間 10：00～12：00、13：00～17：00 土・日・祝日を除く）
郵送による場合は、「薬学事務課大学院担当」宛に特定記録郵便にて送付する。
（2021 年 12 月 1 日（水）17 時までに**必着**）

6. 出願手続

入学志願者は下記の書類を出願期限までに提出する。

- | | |
|--------------|---|
| (1) 入学願書 | 本学指定用紙 |
| (2) 受験票 | 本学指定用紙 |
| (3) 成績証明書 | 出身大学が作成したもの |
| (4) 志望理由書 | 指定の用紙に志望教室への志望理由、大学院で進めたい研究内容について 700 字以上にまとめ、手書きとする（鉛筆不可） |
| (5) 検定料 | 35,000 円（銀行振込とする：別紙参照） |
| (6) 写真 | 脱帽上半身、正面、縦 4cm、横 3cm、出願前 3 ヶ月以内に撮影したものを入学願書及び受験票の写真欄に貼付する。 |
| (7) 連絡受信先シール | 住所・氏名を 3 箇所すべてに記入すること。 |
| (8) 受験票返送用封筒 | ※郵送出願者のみ
長 3 封筒（12×23.5cm）に、宛名を明記、344 円切手（速達）を貼付すること。 |

※ 出願書類に不備があるものは受け付けない。

7. 選考方法

学力試験、面接、成績証明書、志望理由書を総合して選考を行い、合格者を決定する。

8. 試験日時・試験内容及び場所

(1) 試験日時

月 日 (曜)	時 間	試験内容
2021 年 12 月 4 日 (土)	9 : 30 ~ 11 : 00 (1 時間 30 分)	英 語
	11 : 30 ~ 12 : 30 (1 時間)	専門科目
	13 : 30 より	面 接

(2) 解答方法

英 語	出題された 3 問から 2 問を選択して解答する。
専門科目	出題された生物系 (4 問)、化学系 (4 問)、計 8 問から 2 問を選択して解答する。

(3) 試験場 本学

9. 合格者の発表

2021 年 12 月 10 日 (金) 13 時 合格者は本学教育棟 2 号館 G 階薬学研究科掲示板に発表するとともに、本人宛に通知する。(注) 電話による問い合わせには、一切応じない。

10. 学費等納付金

(1) 納 付 金

納付金は下記のとおりである。なお、2 年次以降の学費については、社会情勢の変動により変更することもある。

	入 学 金	施設費※	授 業 料	計
前期納付金	150,000 円	114,000 円	441,000 円	705,000 円
後期納付金		114,000 円	441,000 円	555,000 円

※施設費は入学年のみ、本学出身者は免除

(2) 納付期限等

前期納付金は、**2021 年 12 月 17 日 (金)** までに一括納入する。ただし、都合により一括納入できない者は、入学金を納付期限までに納入し、他の納付金を 2022 年 3 月 4 日 (金) までに納めることができる。期限までに納入しない時は入学資格を失う。

(3) 入学辞退の場合の学費等の返還について

前期納付金を納入後に特段の事情が発生し、入学を辞退する場合は、2022 年 3 月 11 日 (金) <消印有効> までに本学所定の用紙によって入学辞退を届け出れば、入学金以外の納付金を返還する。

11. そ の 他

(1) 受験に際して、偽りの記載又は不正の申告等が発見された場合には合格を取消す。

(2) 一旦提出した書類並びに検定料は、いかなる理由があっても返還しない。

(3) 奨学金制度については、下記まで問い合わせること。

「学生サポートセンター 奨学金係 TEL 042-676-8878 (ダイヤルイン)」

(4) 出願に関する問い合わせ先

〒192-0392 東京都八王子市堀之内 1432-1 東京薬科大学

薬学事務課 大学院担当 TEL 042-676-7312 (ダイヤルイン)

月～金 9:00～17:00

※土日祝日の事務室は閉室となります。

教 室 一 覧〈薬科学専攻〉

2021 年 9 月 1 日現在

研究分野	教室名	指導教員	研 究 テ ー マ
生 薬 学	漢方資源応用学	教授 三 卷 祥 浩 准教授 横須賀 章 人 講師 松 尾 侑希子 助教 井 口 巴 樹	天然薬用資源からの新規抗腫瘍活性物質ならびにメタボリックシンドロームの予防・改善物質の探索と、それらの作用メカニズムの解明に関する研究
	天然医薬品化学	教授 一 柳 幸 生※ 助教 蓮 田 知 代	生理活性天然物の探索と化学構造研究 生理活性天然物の化学構造変換と活性に関する研究
生体機能制御学	機能形態学	准教授 山 口 宜 秀子 講師 林 明 子 助教 石 橋 智 子	グリアによる神経機能調節
	内分泌薬理学	教授 田 村 和 広 准教授 吉 江 幹 浩 助教 草 間 和 哉	創薬標的の探索を目指した妊娠成立機構の解明と不妊を招く疾患の病態解析
	病態生理学	教授 市 田 公 美※ 講師 長谷川 弘 子 講師 藤 田 恭 子 助教 関 根 舞	尿酸異常症の病態生理の解明と薬物治療の基礎研究
	分子細胞病態薬理学	教授 田 野 中 浩 一 講師 丸ノ内 徹 郎	循環器疾患の病態解析
	臨床医療薬学センター	教授 山 田 純 司 講師 大 友 隆 之	生活習慣病の病態生理と薬物治療：肥満症・メタボリック症候群に関する研究
	臨床微生物学	教授 中 南 秀 将 助教 中 瀬 恵 亮	臨床分離細菌の薬剤耐性と病原性に関する研究
	臨床薬剤学	教授 下 枝 貞 彦 准教授 平 田 尚 人 助教 畔 蒜 祐 一郎	がん化学療法における副作用の個別化軽減策に関する研究 循環器系ハイリスク薬（抗血栓薬・抗不整脈薬等）の適正使用に関する研究 災害時の薬剤師活動に関する研究
	臨床薬理学	准教授 杉 山 健太郎 講師 恩 田 健 二 助教 田 中 祥 子	細胞薬力学に基づく難治疾患のテーラーメイド薬物療法
創薬生化学	応用生化学	教授 高 木 教 夫 准教授 林 秀 樹	脳神経疾患・がんの病態解析と治療標的の創出
	生 化 学	教授 佐 藤 隆	皮脂腺の機能および細胞外マトリックス代謝調節から解き明かす皮膚疾患の病態機構とその予防・治療薬および化粧品開発研究
	病態生化学	教授 野 水 基 義 准教授 吉 川 大 和 講師 山 田 雄 二 助教 濱 田 圭 佑	病態解析と創薬を目的とした生体分子の機能解明
	免 疫 学	教授 安 達 禎 之 助教 山 中 大 輔	免疫調節機構の分子論と免疫調節剤の開発 (感染免疫、腫瘍免疫、自己免疫、アレルギーを対象に)
創薬有機化学	生物分子有機化学	教授 宮 岡 宏 明 准教授 釜 池 和 大※ 助教 太 田 浩 一朗	生物活性天然物の合成研究 生物活性天然物の探索と化学構造に関する研究
	分子生物物理学	教授 三 島 正 規 准教授 青 山 洋 史 助教 伊集院 良 祐	生物活性化合物のデザイン・合成及び物理化学的性質に関する研究
	薬 化 学	教授 三 浦 剛 一 准教授 平 島 真 介 助教 中 島 康	有機触媒を用いた人と環境に優しい有機合成反応の開発

(注) ※2023 年 3 月までの定年退職者

教室一覧〈薬科学専攻〉

2021年9月1日現在

研究分野	教室名	指導教員	研究テーマ
創薬有機化学	薬品化学	教授 林 良雄 准教授 谷 口 敦彦 講師 田 口 晃弘 助教 今 野 翔 助教 松 本 隆司 准教授 矢 内 光	生理活性ペプチドの化学合成研究、難治性疾患治療薬をめざしたペプチド創薬研究、小分子ペプチド様化合物を利用したケミカルバイオロジー研究
	薬品製造学	教授 松 本 隆司 准教授 矢 内 光	有機合成の新手法の開発と生理活性物質の合成
分子衛生化学	衛生化学	教授 早 川 磨紀男 講師 藤 野 智史 助教 大 嶋 利之 助教 藤 原 泰之 准教授 篠 田 陽 講師 高 橋 勉 助教 恒 岡 弥生	酸素ストレスによる炎症の分子機構に関する研究 食品由来成分による生体恒常性への影響に関する研究
	公衆衛生学	教授 藤 原 泰之 准教授 篠 田 陽 講師 高 橋 勉 助教 恒 岡 弥生	環境有害因子の毒性発現機構とそれに対する生体応答機構の解明
	薬物代謝分子毒性学	教授 山 折 大 准教授 小 倉 健一郎 講師 西 山 貴仁 助教 大 沼 友和	薬毒物の生体内代謝と薬効・毒性発現メカニズムに関する研究
	医療実務薬学	教授 畝 崎 榮※ 准教授 川 口 崇 助教 藤 宮 龍祥	がん、緩和、支持療法領域における人を対象とした医療機関共同の臨床試験・研究
	医薬品安全管理学	教授 杉 浦 宗敏 准教授 今 井 志乃ぶ 助教 清 海 杏奈	医薬品適正使用における評価法の構築に関する研究
分子創剤制御学	社会薬学教育センター (社会薬学研究室)	教授 北 垣 邦彦	地域の保健、医療、福祉における薬局・薬剤師の役割に関する研究
	社会薬学教育センター (生命・医療倫理学研究室)	教授 櫻 井 浩子	“生老病死”の倫理に関する研究：薬学の視点から
	社会薬学教育センター (薬事関係法規研究室)	教授 益 山 光一	レギュラトリーサイエンスに関する研究
	創剤科学	教授 石 原 比呂之 准教授 高 島 由季	核酸医薬等新規モダリティのための製剤技術およびアクティブターゲティング技術の創製
	薬物送達学	教授 根 岸 洋一 講師 多 田 壘 助教 高 橋 葉子 助教 濱 野 展人	難治性疾患治療のための薬物・核酸医薬 DDS 技術の開発および治療システムへの応用
	薬物動態制御学	教授 井 上 勝央 助教 岸 本 久直 助教 樋 口 直慧	薬物の生体膜透過に関する制御機構およびその影響因子の解析
	臨床薬効解析学	教授 山 田 安彦 准教授 高 柳 理早 講師 片 桐 文彦	化合物の生体に対する作用の解析
	個別化薬物治療学	教授 降 幡 知巳 准教授 柴 崎 浩美 助教 横 川 彰朋 助教 森 尾 花恵	生体模倣ヒト脳モデルを用いた脳疾患治療法開発 体内動態研究のための安定同位体標識体を内標準物質とした質量分析法の開発 ヒトにおける薬物代謝能の評価法の開発とテーラーメイド薬物療法への応用
薬品分析化学	生体分析化学	教授 柳 田 頭郎 准教授 東海林 敦 助教 森 岡 和 助教 守 岩 友紀子	薬物や生体成分の高性能分離法、高感度定量法及び物性・構造・機能解析法の開発
	分析化学	教授 袴 田 秀樹 准教授 小 谷 明 助教 山 本 法央	脂質代謝関連疾患の病態解明と検査法の開発 高性能遺伝子診断法の開発と臨床応用 高感度分析法の開発と薬物動態解析

(注) ※2023年3月までの定年退職者